

## 2. 人材を育てる 科学コミュニケーターの養成

科学コミュニケーターを社会へ輩出するとともに外部人材向けの科学コミュニケーション研修を実施しました。

### ■科学コミュニケーターの輩出

日本科学未来館の科学コミュニケーターは最長5年の任期制職員として採用され、展示フロアでの解説やイベント、展示の企画などの科学コミュニケーション活動を実践しています。任期終了後は科学コミュニケーションの経験をもつ人材として、研究機関や大学、企業、教育機関、科学館・博物館などで活動します。2014年度は10名の科学コミュニケーターを輩出しました。

2014年度の輩出先

輩出先の業種	研究機関・大学等	企業等	その他	計
人数	2名	4名	4名	10名

### ■科学コミュニケーションプログラムの実施

科学コミュニケーションのノウハウを必要とする外部の人材を対象とした実践的な研修などを通じ、科学技術と社会をつなぐ人材である科学コミュニケーターを養成しています。

- ▶研究者に対する科学コミュニケーションOJTプログラム「サイエンティスト・クエスト」の開発・実施  
事前研修を受けた研究者が展示フロアを活用し、1日数回、来館者と直接対話を行うことで、自身の研究について社会の側から多角的に捉え直す機会を得る実践的なプログラムを開発・実施しました。

開催日：2014年9月7日(日)、12月21日(日)、2015年3月22日(日)、3月26日(日)

会場：5階 世界をさぐる

実施者：辻順平(独立行政法人 産業技術総合研究所 特別研究員)

清水崇文(首都大学東京 理工学研究科 客員研究員)

磯部忠昭(独立行政法人 理化学研究所 研究員)

阿部朋行(自治医科大学 再生医学研究部 助教)

講師：日本科学未来館 科学コミュニケーター

参加者：約300人(4日間計)



サイエンティスト・クエスト  
(清水崇文氏)

- ▶大学院生に向けた科学コミュニケーション研修

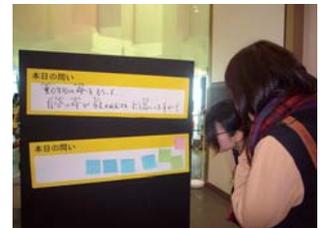
大学院生を対象に科学コミュニケーション講義と展示フロア活動からなる通年の講義を実施しました。

期間：2014年6月～11月

参加：芝浦工業大学大学院生、筑波大学大学院生

講師：日本科学未来館 科学コミュニケーター

参加者：計47人



サイエンティスト・クエスト  
(阿部朋行氏の問い)

- ▶大学生向け短期インターンプログラム

大学生を対象に実践型の短期インターンプログラムを実施しました。

- ・未来館活動調査と大学広報の活用

期間：2014年9月(7日間のプログラム)

参加：武蔵野大学

参加者：4人

- ・サイエンスカフェ企画・運営の実施

期間：2014年9月～11月(7日間)

参加：武蔵野大学

参加者：6人

- ・教育実践演習

期間：2014年9月10日(水)

参加：東邦大学

参加者：19人



教育実践演習 (東邦大学)

- ▶長期派遣教員の受け入れ

現職教員が科学コミュニケーターとして未来館の活動に携わることで、科学コミュニケーション活動のノウハウやスキルを学び、学校教育現場へ還元することを目的として、1名の長期派遣教員を受け入れました。展示フロアでの対話、サイエンスミートークやワークショップの開発・実施、イベントの企画・運営、記事執筆等の業務を通じた研修を実施しました。

期間：2014年4月1日(月)～2015年3月31日(月)

派遣元：埼玉県立浦和高等学校(担当教科：数学)

(敬称略)

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2014年度) ①

日本科学未来館での科学コミュニケーション活動を通して、科学技術と社会をつなぐ役割を果たしています。2014年度に活動した科学コミュニケーターを紹介します。



**安曾潤子**

小さいころに図鑑で見た「変な形の生きもの」が不思議で、ハンマ一片手に「化石」を探る「古生物学」の道に入ってしまった。自然史博物館で学芸員として7年間勤務し、2012年4月より未来館へ。見えない未来を考える時、地球の長〜い歴史がヒントになれば幸いです。



**石川菜央**

専門は人文地理学。学部3年生から7年間、ひたすら日本の鬮牛を研究し続けて博士(環境学)を取得。大学の博物館における勤務、フィリピン滞在を得て未来館へ。国内外におけるフィールドワークの経験を科学コミュニケーションに生かしたい。ニックネームはボリス。



**岩崎 茜**

マスコミ勤務の後、研究職を目指して大学院に進学。専門は環境哲学・倫理学(社会学博士)。自然保護において科学的知識と生活知の融合が重要であると考え、その際、専門家と一般の人々との橋渡しをする科学コミュニケーターの役割に注目している。「すべての学問の土台は哲学である」をモットーに、社会や自然に関するあれこれを思索することから科学にアプローチしていきたい。



**横戸三智子**

子どものころ、空を眺めては宇宙のナゾに思いを馳せる。大学時代に出会った量子の世界に心ひかれ、素粒子物理学を研究(理学修士)。たくさんの人、特に子どもが科学をもっと楽しむ日本にしたい!



**大崎章弘**

機械工学専攻。博士後期過程退学後、大学助手を経て2009年10月より現職。前職では空中描画による表現活動の探索、体験型装置の研究開発などを行ない、現在は自身をインタフェースに来館者の気付きや表現を引き出す対話の場づくりを実践中。専門はヒューマン・インタフェース、空中描画。



**大淵希郷**

生まれて初めてしゃべった言葉は「アリ」。大人になっても、この世にいるんな生きものがあることが不思議で、トカゲ、コイ、ミドリムシなどの進化について研究。その後、動物園で飼育展示係として働く。そこでヒトとも動物とも「対話する」ことの大切さ、難しさ、楽しさを感じ、未来館へ。夢はいつか今までにない動物園をつくること。趣味は生きもの散策、アキバ散策。特技はトカゲ釣り。



**落合裕美**

専門は社会学のコミュニケーション論(修士課程修了)。身体行動からみるコミュニケーションの観点から、ファシリテーションを研究。「コミュニケーションを科学する」というテーマのもと、科学と「社会現象や日常生活」の接点を意識した科学コミュニケーション活動をめざす。最近の関心は、「表情」と「睡眠」について日本の文化的な背景から考えること。



**金 祉希**

韓国出身です。大学から日本へ留学。博士号取得後、神経科学の分野で研究員として基礎研究に携わり、黙々とサルを使った実験の日々を送る。そろそろ人と話したいと思い、未来館へ。基礎研究をもっと身近に!



**國次 純**

工学部(化学科)出身、専攻は環境の「未来館大好き子」。環境コンサルタント業界を経て2011年10月に現職。「これからの環境問題」を来館者と一緒に考えていきたい。毎日、多くの方と対話できるのが幸せ。



**久保暢宏**

専門は表面化学(工学博士)。実験だいずき。「見てみる、触ってみる、やってみる」がモットー。私にとっての科学は知らない世界へのパスポート。いつか宇宙へ…と夢見つつ、南極観測隊参加、ちきゅう乗船を目指して修行中。



**熊谷香菜子**

少女時代の友達はアリとカエル。大学1年で、ウミウシと運命の出会いを果たす。ウミウシを探ったり飼ったり解剖したりして修士号を取得。学生時代に、博物館ボランティアと小学校理科の助手を経験。小学生向け塾から2012年10月に未来館へ。博物館を、もっと身近で、だれもが学べる会場にしたい。未来館での友達はユナナガニと乾眠中のクマムシ。



**後藤成海**

生きものを見るのが大好き。大学時代は「いのちのしくみって不思議だな」と思い続けながら医学や生物学、物理学などを学びました。一応専門はタンパク質です。趣味は野鳥観察と一眼レフで、休日はカメラを背負って公園や野山で鳥を追いかけしています。



**コドブロス・ディミトリス**

ギリシャから来ました。「どうして日本に来たの?」とよく聞かれます。小さいころから「日本に行きたい!」とずっと言っていました。日本の美学とわびさびに夢中になったからです。2009年に来日し、天文学を研究しました(天文学修士)。未来館では、科学は芸術とどうやって繋がっているかをもちと探求したいです。日本語、英語、ギリシャ語のいずれかで話しかけてください!



**小宮山貴志**

専門は人間工学(修士)。玩具メーカー勤務を経て、2012年4月より現職。「やるんだったら、みんなで!おもしろく!」がモットー。特定の誰かではなく、誰もがおもしろいと感じることが重要。どんなトピックに対しても科学を武器にした、おもしろサプライズが起こせないと模索中。最近の関心は、みんなの夢と感動体験。



**佐尾賢太郎**

ナノバイオテクノロジーの研究で博士号を取得し、製薬企業での研究員を経て現職。人の喜び顔を見るのが大好きで、「考える・感動する・楽しむ」がモットー。どうすればお客様に伝わるかを考えて実践し、喜んでもらうことで自分も感動や楽しさを得ていくことが目標。



**笹本良子**

細かい事は気にしない!小柄でおっとり「地蔵系」キャラです。現在、子育てにも奮闘中!専門は原子核物理学。不安定核チーム(何でしょうこれ?!)を使った新しい原子核の研究手法にて、博士号(理学)を取得。研究所で実験していた経験をいかして、研究者と社会との間をつなげるような科学コミュニケーションを目指します。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2014年度) ②



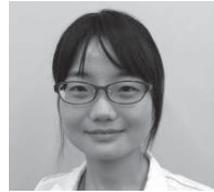
**佐竹 渉**

幼少の頃から宇宙に興味があり、大学で遺跡の石材の研究をするも同じ石の研究で宇宙を対象にできると知り、隕石の研究に転向。大学院で博士を取る傍ら、JAXAで探査機はやぶさの持ち帰ったサンプルの分析を手伝う。



**志水正敏**

幼少時に野菜を育てたことをきっかけに、生物学の研究者になることを決意。しかし、派遣社員時に商品の良さを伝える仕事にかかわった際、「科学の面白さを伝えたい」と気づき、2013年10月より未来館へ。「わさもん(熊本弁で「あたらしもの好き」)志水は、新たな出会いを求めて今日も放浪中!



**沈 晨晨**

大学で環境科学を勉強後、日本で海にいるプランクトンの世界を探索。研究すればするほど地球環境や生物多様性などの重要性がわかるとともに、多くの人に関心を持ってもらうために科学コミュニケーションの重要性を感じた。対話やイベント等で来館者の地球環境問題の解決等へ関心を高めたい。



**蔣 赫**

中国の青島の出身です。2001年に日本へ留学しに来ました。大学の専門は地震防災学で、大学院では情報通信学です。メーカーの研究開発を経て未来館へ。日本の科学コミュニケーションに対する考え方を全世界に発信し、各国の交流を深めていきたいと思ひます。



**徐 大強**

中国・ハルビン市の出身。大学院修了後、1年間小学校に勤め2014年4月より未来館へ。もともと理科教育に関心をもっていたため、未来館で自身の科学コミュニケーション能力の向上を追求していきたい。



**鈴木啓子**

大学院在学中に科学コミュニケーションにはまり、博士号取得後2012年4月より現職。専門は神経科学。研究対象がヒヨコだったのが高じて、鳥全般が好き。科学と未来についてお客様とゆるく語り合っていきたい。



**鈴木真一朗**

未踏ソフトウェア創造事業で培った企画力と実装力を武器に、恋愛支援システムをつくって修士号を取得。その後、商社での研究開発職を経て、2009年10月より現職。認知科学と情報工学の背景をいかし、自分にしかできない科学コミュニケーションを見いだそうと日々邁進しています!



**高橋麻美**

学生時代の半分は海で過ごした、海と生物大好き海人(うみんちゅ)科学コミュニケーター!不思議なことに、大好きな海を遊ばせれば苦手だった物理も化学も地学にも興味が湧いてきた!この経験を生かして、最近は海だけでなく色々な「科学の見かた」を探索中!大学では環境問題の一つ「海洋酸性化」と「サンゴ」をテーマにサンゴの飼育実験や無人島での調査を行い修士号取得。



**武田真梨子**

魔女になりたい!と思ひながらその辺の草や生き物と戯れていた子ども時代。そのおかげで高校では生物学が一番好きな科目に。大学に入ってからは環境科学を専攻。その後、高校理科教諭、研究所アシスタントの経験を経て、現職。自然が大好きなので、森や海の中で遊びながら自然と共に生きる方法と皆さんと一緒に考えていきたい。



**田中 健**

大好きな出身地の環境を守りたいと思ひから、地元県庁に入学。公害・廃棄物対策、リサイクル推進などに励む。国への出向をきっかけに、より多くの人と科学的な視点から地球の未来について一緒に考えていきたいと思ひうようになり未来館へ。世界中で資源がうまくまわるにはどうすればよいか一緒に考えませんか?



**谷 明洋**

星と山と農漁村が好き元新聞記者。学生時代は陸路のアジア横断など旅を楽しみ、赤道近くで垂直に昇ってくるオリオンを見て「ああ、地球って丸いんだ」。地方紙記者時代は世界一硬い発酵食品とも言われる饅頭の伝統工場に惹かれ、「職人技と微生物の力が生み出した日本の宝だ」。2013年4月に未来館入り。中途半端ながらも幅広い興味と遊び心で、どんな面白いことができるかな。



**田端萌子**

地球惑星科学で修士取得。隕石専門。最近は科学の分野間だけでなく、科学とアートなどさまざまな分野のインタラクションに夢中。それが科学コミュニケーションを面白くすると信じている。「日々勉強」、「時間厳守」、「南極進出」を目標にフロアで修行中。



**田村真理子**

フラレンに夢と希望を感じ有機化学を専攻。修士課程修了後、高校教師を経て2012年4月より現職。科学コミュニケーションを通じて、多くの方々と対話をするなかで日々自分自身も成長したい。文系・理系問わず興味をもったものは徹底的に調べ、何事も恐れずにまよってある!歳をとっても、好奇心を忘れずに生きていきたい。



**千葉磨玲**

アメリカ留学時代は植物ウイルスの研究、帰国後はがん細胞分裂期のRNAIに関する研究を行い(理学博士)、2011年4月より現職。大学院時代から研究をしてきたSTS(科学・技術と社会)と中国科学技術館人材交流プログラムで養われたグローバルマインドセットをバックボーンに地球規模課題の解決へ取り組んでいく。



**陳ドウ**

学部時代に大学内で開催されたサイエンスカフェへ参加し、科学コミュニケーションと出会う。その後、ロンドンのサイエンスミュージアムなどの科学機関で科学コミュニケーションのインターンシップを経験したのち、科学をやるより科学を語るほうが、人間が好きな自分に合うと感じ、2014年春から未来館へ。国際交流をはじめ、グローバルに発信していきたい。



**戸坂明日香**

子どものころから絵を描いたりものを作ることが大好きで、美術の一本道を歩んできました。大学4年の時、彫刻を作るためのモチーフ探しに科学博物館へ足を運んだのがきっかけで、科学に興味をもつようになりました。想像と創造を求めて未来館へ。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2014年度) ③



**新山加菜美**

高校生の頃、科学番組（不可思議現象を解明する！）を見て、研究者になることを決意。大学院修了後、診断薬メーカーで製品の研究開発に携わる。科学実験の“考える”楽しさを伝えるとともに、科学で人の暮らし（「衣」「食」「住」）を豊かにする活動をしていきたい。



**西岡真由美**

「人・動物・自然の調和を未来につなぐ」ことが人生のテーマ。小動物の臨床医として勤務後、人と自然の結びつきに働きかけるには、科学社会と向き合う必要があると考え、科学コミュニケーターの道へ。科学技術とどのようにつきあい、未来の社会を築いていくか、多くの人と語り合うことを楽しみにしています。



**西原 潔**

大学院と研究所で植物の染色体について研究し、2011年4月より未来館へ。言葉と写真による表現の方法を模索しつつ、科学について語り合うための土壌づくりを目指している。根が寂しがり屋なので、さまざまな人との出会いを大事にしていきたい。趣味は写真とドライブとワイン。



**野副 晋**

研究員として2つの研究所に勤務後、2011年10月から未来館に。2012年10月から、展示やイベントの企画製作など行う部署へ異動。メカ好き、のりもの大好き。二児のパパ。



**長谷川麻子**

理系一家に育ったロシア文学専攻(現代詩)。未来館が開館した2001年夏まで一年間モスクワに暮らす。帰国直後、米国で同時多発テロが起きた。それから10年。外務省勤務やロシア語の通訳翻訳業をへて、2011年から科学コミュニケーターに。アプローチこそ違え、真理を見極めたいという思いは文系も同じはず。Geo-Cosmosの美しさにパワーをもらいながら、日々新たな気持ちで学び、驚きや喜びをていねいに言葉にしていきたい。



**濱五十鈴**

事故や病気のために手足の不自由になった人の治療を目指して、再生医療の研究に6年間携わり、博士号(医学)を取得。2012年春より未来館へ。科学のお話を通じて多くの人を笑顔にしたいと思い、科学コミュニケーターになりました。目指せ！人類70億、総笑顔！！



**樋江井哲郎**

経済学部在籍時に、睡眠障害の人が増えることで莫大な経済損失が生じることを知り、衝撃をうける。その原因を探るべく、大学院では思い切って理系に転向。研究者の道を志すが、実験が下手すぎて挫折。ただ科学好きはおさえられず未来館へ。地球の未来についてみんなで考える場を創っていきたい！



**福田大展**

クローン人間？いいえ。「クローン病」。特定疾患のクローン病を患う難病科学コミュニケーター。専門は物性物理。大学では太陽電池用のシリコン結晶を作成する研究に携わり、修士(物理学)を取得。新聞記者として4年半、地震防災や浜岡原発などを取材した後、2012年10月より現職。「事件は研究室じゃなく、現場で起きてるんだ！」がモットー。エネルギー問題や放射線、地震など、有事の科学コミュニケーションに興味があります。



**藤井満美子**

専門は分子生命科学。ガン細胞のタンパク質の研究にて修士号取得。卒業後は、「特定の研究というクローズな社会ではなく、さまざまな社会で働く人とパイプがある仕事したい」と思い、畑違いではあるがシステムエンジニア(SE)として就職。科学を「伝える」だけでなく、「感動を共有」できるようにすることを目標に奮闘中。多くの方々の「おもしろい！」をパワーに日々成長していきたいと思えます！



**古澤輝由**

大学院修了後、高校で生物の教員をしつつ、科学と芸術をつなぐワークショップの企画・運営に関わる。その後、青年海外協力隊としてアフリカ、マラウイ共和国で2年半、理科教育を。節操のないことが取り柄と信じ、まとまりのない経験をまとめて活かすため、2014年より未来館へ。



**ヘイチク・パヴェル**

チェコ出身。中学校の頃から宇宙の誕生やブラックホールなど、狭い地球の枠を超えるトピックに興味をもち、大学で物理と数学を専門にした。卒業後社会に出て、社会と科学の深い繋がりに気づき、その共生についてもっと知りたいと思い未来館へ。文化を国境を越える科学を皆さんと楽しく共有したい。



**堀川晃菜**

微生物に秘められた可能性に胸ときめかせ、大腸菌の研究で修士取得。農業・種苗メーカーに就職し、農業という一つの科学技術の産物に対し、多くの人がネガティブなイメージを抱いていることにショックを受ける。これを機に、科学と人々の架け橋になりたいと思い、未来館の科学コミュニケーターに。みなさんと一緒に未来の在り方を描ける科学コミュニケーターを目指します。(そこに微生物を絡めることが密かな夢)



**本田隆行**

大阪・枚方が育てた、自称「おしゃべりな理系」。宇宙の神秘に魅せられて、大学院では惑星科学を専攻(修士)。卒業後は地元市の役所で勤務するが、好きな科学が忘れられず未来館へ。科学・ひと・まちをつなげて日本をおもしろくしたい！



**本田ともみ**

「環境問題とよりよい福祉は両立できるの？」そんな疑問から一番ミクロな実践として「園芸療法」を研究してきた7年間。人がワクワクする場、変化する瞬間を見るのが生きがい。チェコと宮沢賢治をこよなく愛する。人と人が生み出す化学変化を、地球の未来にいかせる科学コミュニケーターを目指します！



**益原愛子**

専門は農学。縁あってメキシコへ留学、現地の大学院(農業森林学修士)に進み、明るくおおらかなラテン気質にもまれながら無事帰国。人でも多くの日本に住む人たちと、そして日本から遠く離れたさまざまな国の人と未来館をつなげていきたい。科学を楽しく感じて、世界視野での地球環境を身近なところから考えていくことをモットーとする。



**松井 彩**

「人は一生のうちに『満月の瞬間』を何度見ることができたらうらうら・・・？」歩きながら空を見上げ、もの思いにふける。哲学者になりたかった科学コミュニケーター。2013年4月から日本科学未来館で働いています。大学の研究成果からビジネスをつくる「技術移転」という仕事をしていたが科学コミュニケーションの世界に飛び込んできました。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2014年度) ④



**松浦麻子**

大学院のころ、科学コミュニケーションに興味をもつ。研究者か科学コミュニケーターになりたかったが、「一度、社会に出たほうがいい」と恩師に言われ、就職。原子力安全に関わる業務に従事。東日本大震災を機に、科学技術の裏と表の両方を伝えられる人になりたいと、満を持して2013年10月から未来館へ。



**山崎 功**

高校卒業後、いろんな人や文化に接したいと思い米国に留学。ミネソタ大学大学院で自然環境教育を専攻。その後10年間ミネソタ科学博物館で勤務。2011年1月から未来館で勤務。外国人にも楽しんでもらえる環境をつくっていきたい。



**池辺 靖**

科学コミュニケーション専門主任  
理学博士。宇宙物理の分野で、理化学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、2004年より未来館勤務。



**小沢 淳**

科学コミュニケーション専門主任  
科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータ・グラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などをおこなった。未来館では情報科学技術分野の展示企画を担当。



**松岡 均**

科学コミュニケーション専門主任  
理学博士。専門は宇宙物理学。大学院修了後、国内外での研究生活を経て、2004年に未来館へ。その後、JAXA宇宙教育センターで学校教育の支援活動に従事し、2012年に再び未来館に戻り現職に就く。さまざまな経験を活かし、社会と研究者の橋渡しをしたいと思っている。



**森田由子**

科学コミュニケーション専門主任  
博士(理学)。専門は生物学(動物学)。大学と製薬会社で、基礎科学と応用科学のそれぞれの立場を経験したことが、現在のモノ・コトの考え方に大きな影響を与えた…と思っている。2012年より現職。科学コミュニケーションマインドをより多くの人がもつようになるためのしぐみを、考え続けている。